



食品ロスを削減するための 30・10運動について

三宅和広 議員

「30・10（さんまる・いちまる）運動」とは、食品ロスを減らすために「乾杯後30分間は席を立たず料理を楽しもう。」「閉会前10分間は自分の席に戻り料理を楽しもう。」というものである。この運動により飲食店での食べ残しを約半分に

減らした自治体もある。食品ロスの削減は環境や家計にも優しい。さらに、処分費用を削減することができる。本市でも30・10運動に取り組んではどうか。

山本市長 食品ロス削減は

重要な社会的課題であり、飲食店や家庭など各段階で

の取り組みが必要であると考える。30・10運動については、事業所等の意見を聴



日本の食品ロスは、年間632万トン。一人1日当たり換算すると、約136グラム。
（農林水産省・環境省の推計）

きながら進める必要があると認識している。

「^{フラベ}童商店街」の実現について

明治大学の学生が天童市の地域活性化のために「童商店街（通称「フラテン」）」というものを提言した。

子ども向けの魅力的なイベントを中心市街地で行い、その親や祖父母が商店街に足を運ぶきっかけにしようとするものである。

現在実施している「天童まちなか大学」の中に、この童商店街の趣旨を入れ込み、子どもを対象にした企画を実施してはどうか。

山本市長 本市が天童商工

会議所とともに主催する「天童まちなか大学」において、秋に開催するものの中で子ども体験型ゼミの開催を計画している。童商店街の趣旨に沿ったものと考えている。今後とも効果的な支援策を講じていきたい。